

復興支援異分野連携プロジェクト

第4回 異分野の企業、団体等の連携による災害復興イノベーション会議

【概要】

開催日時：平成23年6月6日（月）14:00～17:00

開催場所：秋葉原 UDX 6F UDX オープンカレッジ

参加人数：参加者数:15名

【会議開催目的】

東日本大震災において、研究機関や企業単独の技術シーズやアイデアを組み合わせ、本格的な復興支援のプラットフォームの構築、プロジェクト化を進める。本会議においては様々な分野の企業・団体様にお集まりいただき、それぞれの復興支援に向けたシーズ、アイデア等の意見交換を行うことを目的とする。

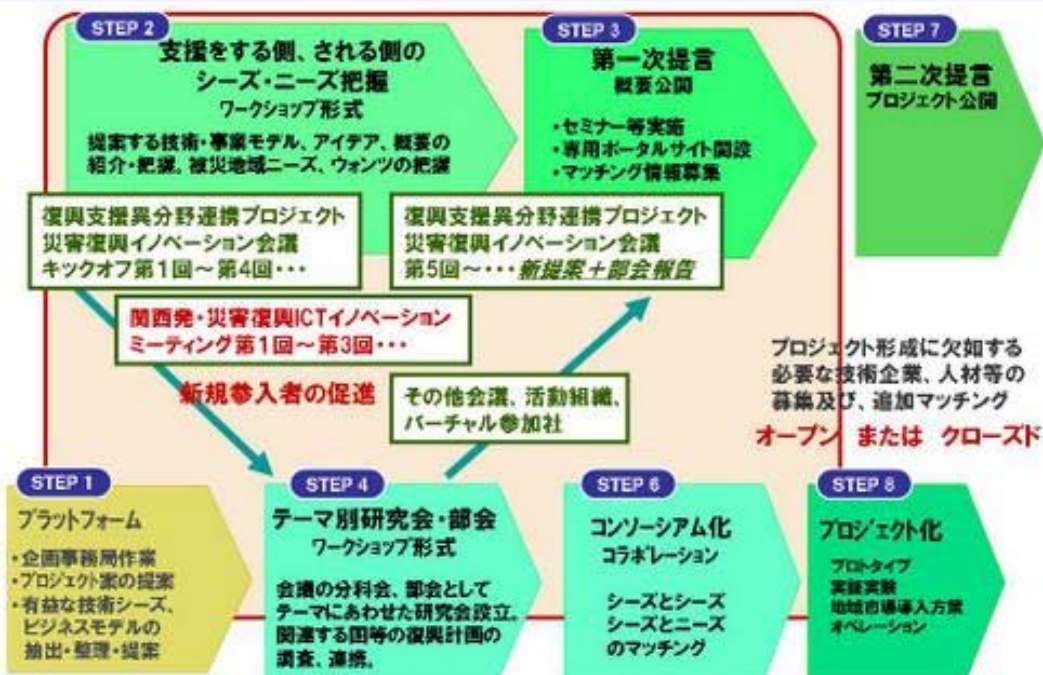
【会議内容】

今後のプロジェクトの方向性

新産業文化創出研究所 所長 廣常啓一

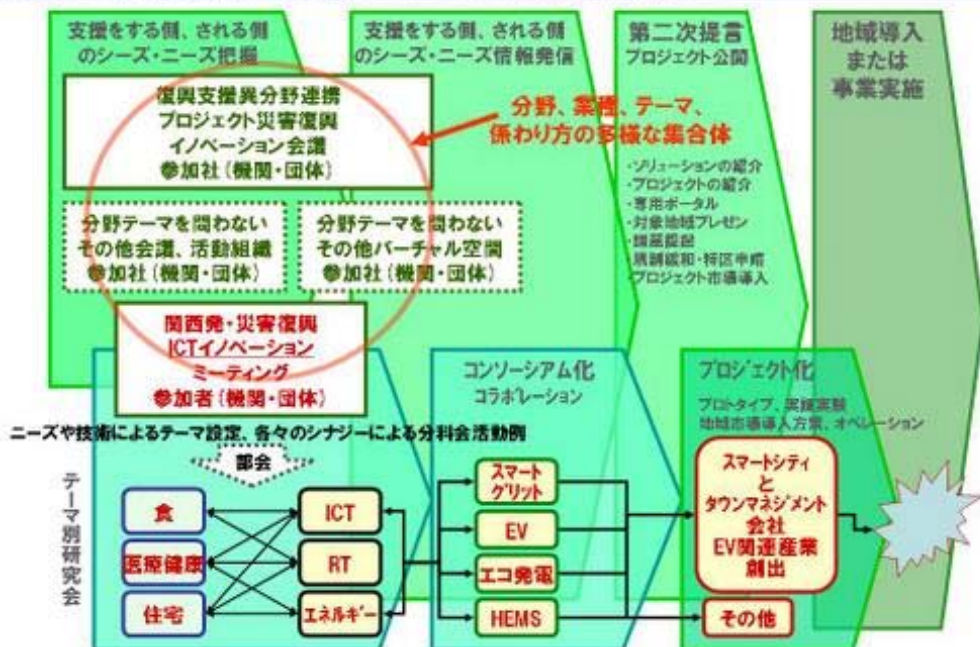
第1回～第4回は参加企業・団体のシーズを出しあうことに注力した会議であったが、第5回、第6回の会議では部会報告と新提案を行う。現在進行中の部会に関しては、既にプロジェクト化した段階での話しもあり、クローズドで行っているものもある。

近日の進め方



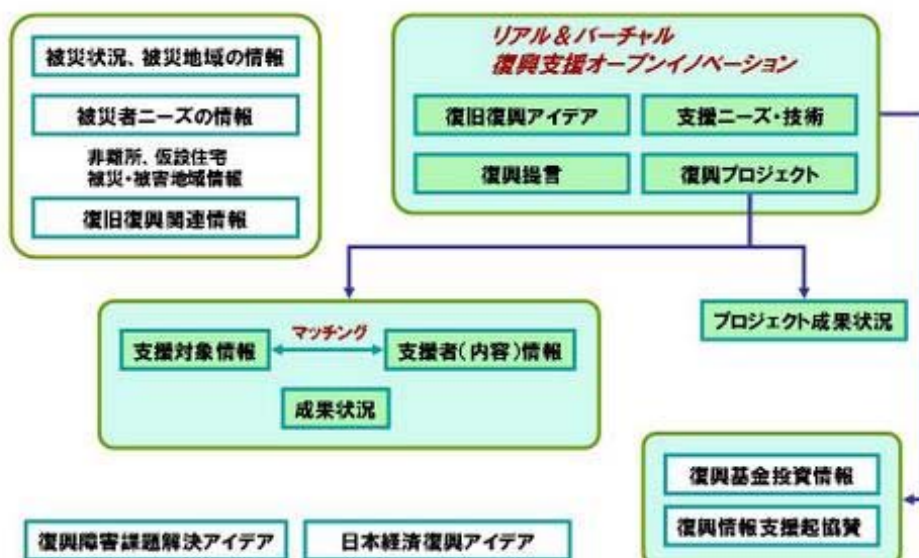
分科会活動はそれぞれ行っていくが、これらがコンソーシアム化、プロジェクト化する段階ではそれぞれが関わりあって進行していく。

異分野の多様な集合体から連携プロジェクトの組成と導入実施まで



現場の状況、ニーズの把握は非常に大切で、現場の声を吸い上げることのできるシステムを形成する。それをリアルとバーチャルにおいて可視化し、支援する側も支援される側も目的意識を持った行動がとれるプロジェクト化をしていく。そのためにも、ポータルサイトの果たす役割は大きいと考える。

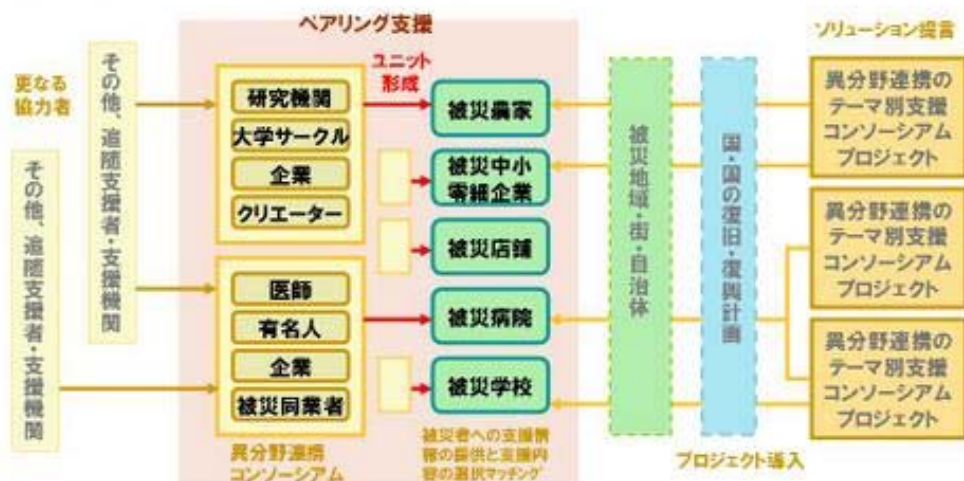
提言情報発信、バーチャルマッチングのためのポータルサイト



また、「ペアリング支援」を行う。中国四川大地震の奇跡の復興を生んだ、地域通しをペアリングし、競いながら復興を推進したペアリング支援。東日本大震災の被災・被害地域で、この仕組みを小規模にし、民間企業や団体、大学や研究機関を中心としたコンソーシアムが、被災地域の街や個別の農家や漁業家、組合や商店、中小企業、学校や病院の復興支援のユニットを形成し実施し、各コンソーシアムやプロジェクトのチーム通しで競い合い、復興を急ぐ。その復興状況をポータルサイトなどでリアルタイムの情報公開し、リアルとバーチャルのオープンイノベーションにより、更なる応援者が各ユニットの課題解決や協力を拡大していく。

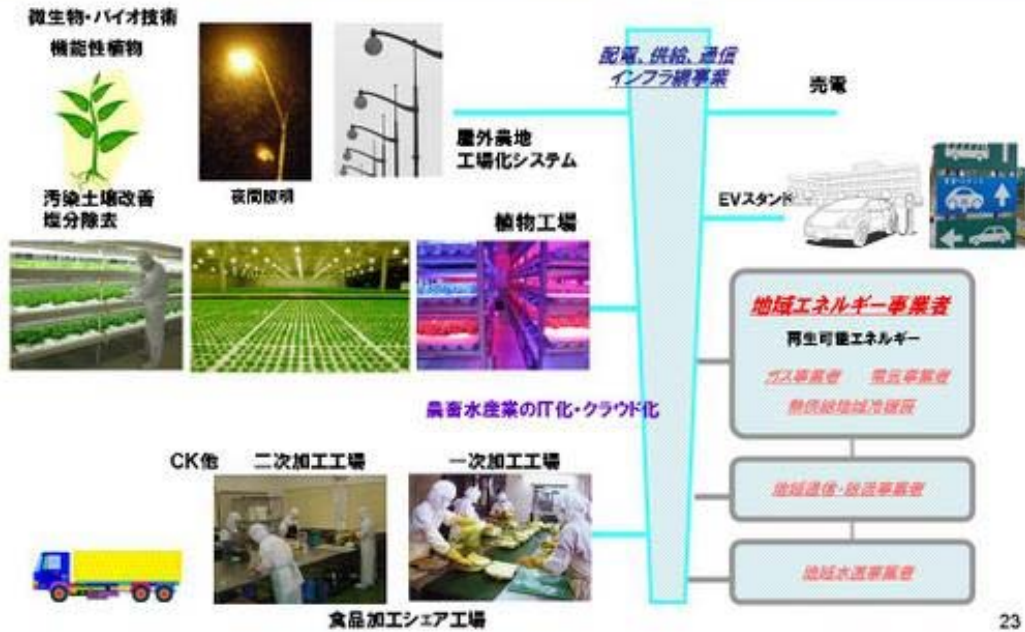
ペアリング支援

中国四川大地震の奇跡の復興を生んだ、地域通しをペアリングし、競いながら復興を推進したペアリング支援。東日本大震災の被災・被害地域で、この仕組みを小規模にし、民間企業や団体、大学や研究機関を中心としたコンソーシアムが、被災地域の街や個別の農家や漁業家、組合や商店、中小企業、学校や病院の復興支援のユニットを形成し実施し、各コンソーシアムやプロジェクトのチーム通しで競い合い、復興を急ぐ。その復興状況をポータルサイトなどでリアルタイムの情報公開し、リアルとバーチャルのオープンイノベーションにより、更なる応援者が各ユニットの課題解決や協力を拡大していく。



地域エネルギーの活用による農畜水産業の6次産業化

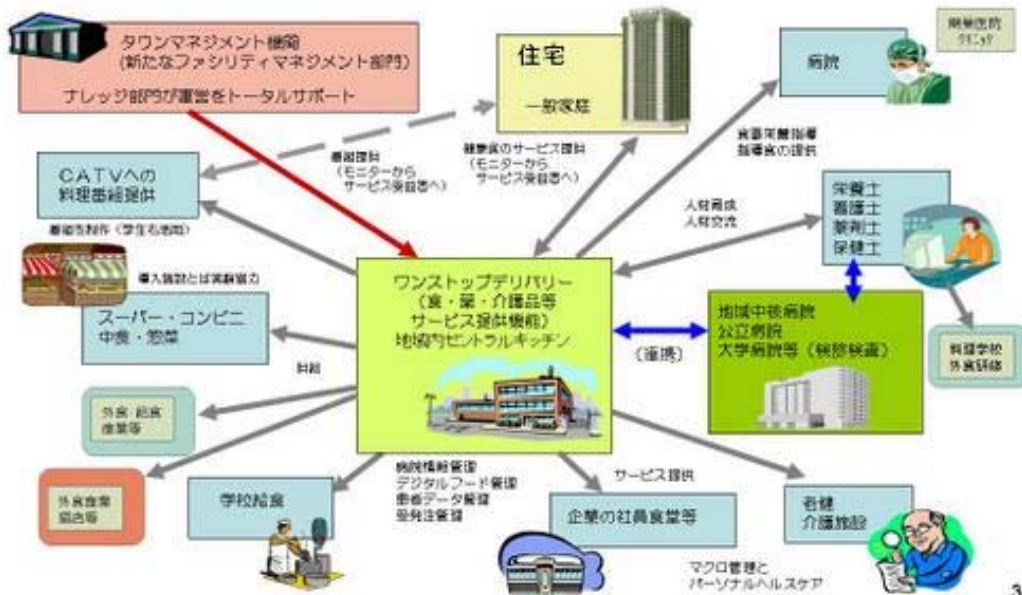
地域エネルギーの活用による農畜水産業の6次産業化、先端技術・IT活用



地域における食とヘルスサービス(ドクターズキッチン含む)のビジネス展開例

地域における食とヘルスサービス(ドクターズキッチン含む)のビジネス展開例

タウンマネジメント機関が、運営学公民連携を通して、地域に対して、様々なサービスを実際に各分野に提供していくことで、その対価を収益源とし、自立運営をおこないます。



復興花博

花と緑がもたらすイノベーション拠点と緑の街づくり、復興花博



<プレゼンテーション>

● 大日本印刷株式会社

日本の子供たちの未来のためにできることとして、子供たちの作品を海外へ発信していく。また、被災地の情報を海外へ映像配信をしていくことによって、文化、国民性を知る機会を作りたい。

● 博報堂

被災地からカジノ誘致の声が上がっている。治安、法改正諸々の問題解決と誘致場所が問題。カジノ投資を復興資金とし、地元の自立化を支援する。

<フリーディスカッション>

- 復興博覧会について。東北において実験型都市の創造。園芸博などと組み合わせることにより、広域で長期間の開催が可能となる。博覧会を海外からのインバウンドのきっかけとし、カジノ等と組み合わせることにより回遊性を持たせることができる。

- ポータルサイトについて。海外へも活動の可視化する。(被災地の要望もしくは支援側のシーズを可視化)。
- 東北の伝統の味を海外へ。醤油、酒、みそなど数値化、データ化して海外での生産を可能にする。(他自治体で横請け的に生産することも可能。) 原産地にこだわったその土地でしか作れないものと、他地域で作るものと、両方のアプローチが可能。
- E Vモーターレースについて。歴史的に見て、カジノとモーターレースは親和性がある。カジノ+E Vレースで観光と結びつける。
- 日本の離島では、地産他消や島の活性化のための様々な取り組みがある。エコタウンやコンパクトシティを作るヒントとなる。
- 国際的にも風評被害が広まっており、放射能除去は不可欠。放射能除去のための新しい概念の紹介。

【第4回会議を終えて】

4回目は参加者15名と少なかったが、ゆっくりと時間をとって話すことができた。今回の話し合いの特徴としては、どの話し合いも海外へ目を向けたものであったことである。海外において、支援を行いたくても、何を支援してよいのかわからない状況がある。また視点を変えれば、国際競争力が低下している現在、グローバルを意識した復興支援は不可欠であり、またその取り組みは被災者の心の支えやモチベーションへもつながる。その意味でもポータルサイトでの活動の可視化は必要である。

また、I R (インテグレーション・リゾート) の誘致や復興博覧会、E Vモーターレースなど、インバウンド観光をあわせた考え方も復興において有効な手段である。

以 上